



# 『東北圏だより』

## 宮城県への復興に向けて

## 復興庁 宮城復興局

東日本大震災から2年、復興庁の発足から1年以上が経過しました。宮城県は全国で最も被害が大きく、死者数は全体の15,880名（震災関連死除く）のうち約3分の2にあたる9,566名に上り、全壊した住宅の数も全体の128,931棟のうち約3分の2にあたる85,414棟となっており（全体平成25年2月27日現在、宮城県1月31日現在）、この未曾有の大災害に対して、広範囲かつ大規模な復旧、復興の課題に直面しています。

中でも重要な課題は、インフラの復旧、住宅の再建、生業（なりわい）の復興と被災者の心のケアです。

現在、大勢の被災者の皆様が仮設住宅にお住まいになっていることから、一日も早く「終の棲家」に移っていただくために、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等のまちづくりに関する事業について、より一層の加速化を図らなければなりません。

このためには、土地取得の円滑化、資材・人材不足等を踏まえた施工の円滑化などの課題へ対応していく必要があります。

また、被災地に戻って生活を再建するためには、生業の復興も欠かすことはできません。将来性があり、持続的な発展が見込める地場産業の復興が重要です。

さらに、長期化する避難生活のため被災者のストレスは日増しに募っており、こうしたなか心のケア等についても一層の取組が求められています。

宮城復興局では、発足以来、現場に足を運び、被災地に寄り添って、復旧・復興に向けた課題の掘り起こしを行い、復興特区や復興交付金等の活用によって住宅の再建や産業の復興に向けた各自治体の取り組みを支援させて頂いております。

避難生活を送られる皆様が一日も早く日常を取り戻していただけるよう、宮城復興局としても様々な課題克服のため、常に検証を怠らず、迅速な対応を進めて参ります。関係機関の皆様方のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



▲平成25年2月10日 根本復興大臣東松島市視察風景

## 手づくり郷土賞を『上中通りため池整備推進委員会』（秋田県大館市）が受賞しました

地域づくりに取り組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」は、今年度で27回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です。今年度は、東北地域から唯一『<sup>ふるさと</sup>釈迦内上中通り「親水公園」（泥沼再生）』が選定され、2月8日に大館市役所にて認定証伝達式を開催いたしました。

大館市釈迦内地区では、水田の減少により利用されなくなるとともに、生活排水の流入により水質が悪化した「ため池」が、雑草と浮き草が生い茂る「泥沼」となり、釈迦内上通り・中通り町内会での問題となっていました。その問題を解決するために両町内会が話し合い、平成17年6月に「上中通りため池整備推進委員会」を設立し、市の助成事業「大館市地域づくり協働推進支援事業」を活用し、住民総出で泥や浮き草を取り除くとともに、アヤメやアシサイなどの植物を植え、住民の憩いの場「親水公園」として新たに生まれ変わりました。今回の整備を契機として、活動の輪も広がり、地域コミュニティの強化も図ることができました。

今後は、もっと多くの方が利用できるよう整備を進め、後世に引き継ぐために頑張っていきたいとのことでした。



## ゆきみらい2013 in秋田が開催されました

「ゆきみらい2013 in秋田」が平成25年2月7～8日の2日間、秋田県秋田市において開催されました。「ゆきみらい」は雪国の現状や未来について、一般市民や研究者、行政担当者等が意見や情報の交換を行い、相互に交流や連携を促進するとともに、雪のない地域に向けて情報を発信していくことを目的に、北海道、北陸、東北でリレー開催しており、今回の「ゆきみらい」では「シンポジウム」や「研究発表会」、「見本市」、「除雪機械展示・実演会」といったイベントを開催しました。

東北圏は、圏土の約85%が豪雪地帯であり、降雪・積雪等の厳しい気象条件が日常生活や経済活動の支障となっており、このため雪による暮らしの障害を克服し、安全で快適な冬期間の生活環境の確立が課題となっている一方、雪を魅力ある貴重な地域資源ととらえ、雪と共存し、雪を活かした取組を積極的に推進することが必要であると「東北圏広域地方計画」でも提唱しております。

2月7日に開催されたシンポジウムでは、徳山日出男国土交通省東北地方整備局長（実行委員長）の主催者挨拶、佐竹敬久秋田県知事、穂積志秋田市長による開会挨拶、菊川滋国土交通省技監による来賓挨拶の後、国立秋田高専名誉教授 伊藤驍氏により「大雪のメカニズムと雪国秋田の地域活性化」と題して基調講演をいただきました。その後のパネルディスカッションでは、コーディネーターに秋田魁新報社論説委員長 鎧隆千代氏、パネリストに秋田大学工学資源学部准教授 浜岡秀勝氏、NPO法人秋田バリアフリーネットワーク理事長 佐々木孝氏、秋田県教育委員会委員 北林真知子氏、湯沢市建設業協会会長 山脇幹氏、また、コメンテーターとして基調講演を頂いた伊藤驍氏をお迎えし、「疲弊する地域経済と高齢化に伴う冬期の安全・安心の確保」をテーマに、現状や課題について意見を交わされ、会場に訪れた約500人の方が耳を傾けていました。

2月7～8日の2日間では、見本市、除雪機械展示・実演会が開催されました。見本市は、快適な冬の生活環境づくりのために必要な克雪・利雪技術などを企業・団体・行政のブース展示により紹介し、雪国の自然・生活文化などの魅力を情報発信しました。

除雪機械展示・実演会では、除雪機械の最先端の技術を披露し、機械の技術革新や除雪事業の仕組みを理解していただくとともに、身近な除雪機械の展示を行いました。雪が降る天候の中、地元の幼稚園児を含む多くの方に来場いただきました。

2月8日に開催された研究発表会では、調査研究を行う技術者と住民やNPOといった様々な人々を結びつけ、雪に関する様々な情報を紹介・発信していく場とするものであり、「冬期における災害時の対応」「防雪・除雪技術の活用」「雪を活用した冬期観光や雪国ノウハウの継承」の3つのテーマで、研究機関、企業、行政等、様々な立場の方から39題の発表を行っていただきました。



オープニングセレモニー



パネルディスカッション

## 編集後記

本日（3月11日）は東日本大震災から二周年となります。

国立劇場において「東日本大震災追悼式」が執り行われ、各自治体でも同様に追悼式が行われます。この震災では、津波により二万人を超える方々（死者・行方不明者）の尊い命が犠牲となり、東北の沿岸部に甚大な被害を被りました。亡くなられた犠牲者の皆さまのご冥福をお祈りするとともに、月日の経過とともに薄れていく記憶を忘れないためにも、14時46分には心からの黙祷を捧げたいと思います。

各構成機関では、4月期異動される方もおられると思いますが、新年度からの更なる復興と広域地方計画の推進に向け、引き続き御尽力の程よろしく願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp